

# 新年のご挨拶

太田市医師会長 小島 章

新年明けましておめでとうございます。

今年は4月に診療報酬改定がプラスかマイナスかそれが問題です。マイナス改定では、地域医療の崩壊につながるものが危惧され、さすがに昨年11月28日中医協においても診療報酬改定に関する意見書で「さらなるマイナス改定を行う状況にない」と明記し国民医療を守るプラス改定を実現し、必要な医療費、財源の確保を図る方向で動き出していますが予断は許されません。医療制度改革、後期高齢者医療制度の創設、特定健診、特定保健指導の開始等々いずれも厳しい状況が続くと考えられます。

さて、去年は選挙の年でした。太医においても平成19年3月27日より5期10年の輝かしい実績を積んだ有坂体制から新体制となり、新しい力を取り込んで医師会運営に携わっております。会員のためになる医師会活動を推進し、さらには「医師会とは何ぞや？」という問いに答えるべく、地域住民の理解を得るための諸活動もこれから大変重要になってくると存じます。会員の皆様の御指導、御鞭撻、御協力をいただいて頑張らせていただきます。

「医政なくして医療なし、医療なくして医政なし」と言われていますが、参議院選挙においては日医の推薦した候補者が次点になり、今年予算編成や医療制度改定に影響必至と思われ、今となってはできるだけ早期の繰り上げ当選を期待しているところです。昨年7月22日の県知事選挙においては、地元太田市より立候補した大沢正明氏を当初より強力に支援し、その後総理大臣に就任された福田康夫氏の自分の選挙以上の熱心な応援もあり、野球でいえば9回裏の逆転により、知事に見事当選し地元で大きな歓声が上がりました。今後の福田総理、大沢知事の御活躍を期待しております。総理の公約の中で、70歳から74歳の自己負担を一割に凍結し、後期高齢者医療制度における保険料も大幅に減額するとの政策は大いに歓迎するところであり、ついでに有坂實名誉会長が日医で質問し要望した、控除対象外消費税いわゆる医療損税の撤廃もしていただければ大変有難いと存じます。大沢知事が公約した、福祉医療の拡充、救急医療の充実等も実現に向け、財源の確保に向け知事自ら全国にトップセールスをしている努力を高く評価しております。

また、当地域でも、全国の例に漏れず専門医療、高度医療に携わる勤務医不足が続いており「いつでも、だれでも、どこでも」という国民皆保険制度の根本が危うくなっております。各病院の院長先生をはじめ医療関係者の皆様の必死の努力によりかろうじて崩壊を免れている状況です。これからはますます医師の引き剥がしがあり勤務医不足が進むことが予想され、国の政策の根本が変わることが求められます。看護師不足も続いております。7対1看護体制開始後、地元の医療機関より引き抜きがあり、看護学校の卒業生をなんとか地元に着させるべく太田市との話し合いも持たれましたが、なかなか一筋縄では解決できない問題です。

地域住民のため、医師会員自身のためにも、そして開業医と勤務医の役割分担の一助になればと、太医では周辺の医師会に遅ればせながら太田市と協力し平成18年4月より平日夜間急病診療所を開設し、昨年11月までに3630人の患者様が受診し、午後7時から午後10時まで限

られた時間の一次救急ではありますが、住民が安心して暮らすための地域医療にそれなりの役割を果たしていると存じており、さらに太田市と太田市救急病院協議会の要望と市民の声により、今年4月より土曜日の診療を開始すべく関係各位のご協力をお願いし、鋭意努力しているところです。

昨年春の麻疹の流行後、太田市、太田市教育委員会、太田保健福祉事務所と太田市医師会で麻疹対策合同会議を立ち上げ、協議の結果太田市教職員1843人の抗体価検査（NT法）を行い、抗体価4以下の教職員288人のうち麻疹予防接種希望者266人に麻疹単抗原ワクチンを接種しました。4月から中学1年生、高校3年生のMRワクチン接種が始まり、学校における麻疹の流行の撲滅が期待されます。今年は今まで以上に医師会の事業も増加し、会員の皆様の果たす役割がますます重要になり多忙な日々が続くことが予想されます。

最後になりますが、県医、太医関係各位の御活躍、御健勝、御多幸を心より祈念申し上げ年頭の挨拶とさせていただきます。